

第1回厚木市中学校部活動の在り方検討委員会会議録

会議概要

会議主管課	教育部 教育指導課
開催日時	令和7年9月30日（火曜日）午後3時45分から5時30分
開催場所	厚木市役所第二庁舎16階 会議室A
出席者	厚木市中学校部活動の在り方検討委員9人 厚木市教育委員会教育長、教育部 教育指導担当部長、教育指導課長、事務局（教育指導係員、教育振興係員）
説明者	教育指導課指導主事1人

傍聴者3人

委員9人中9人出席（過半数）により会議は成立

会議の経緯は次のとおりです。

1 開会 事務局

2 委員紹介 委員各自、自己紹介

3 事務局紹介 事務局の紹介

4 議事

(1) 委員長の選出及び職務代理の指名について

- ・委員長の選出については、規則第5条第1項に基づき、委員の互選により小泉 綾氏が選出された。
- ・職務代理については、規則第5条第3項に基づき、委員長の指名により八木 義之氏が指名された。

(2) 会議録の公開について

(委員長) 発言者の氏名は記載せず、発言内容を要約する形式で作成することでよろしいか。

(委員) 異議なし

(3) 情報共有 資料1～10に基づき事務局（教育指導課）から説明

ア 国・県の動向

イ 本市の現状

ウ 各種アンケート結果

エ 全国の取組事例

オ 本市の部活動地域展開（地域移行）の方向性

カ 厚木市中学校部活動の在り方検討委員会の所掌事項等

キ 児童・保護者アンケート

《質疑応答》

委員：保護者は、どの程度地域クラブ活動という言葉を理解しているのだろうか。アンケートに回答するに当たって、全く知らない方もいると思われる。地域クラブ活動について説明した資料をつけることは考えているか。

事務局：1枚、紙面で説明資料をつけようと考えている。

委 員：アンケートの方法は。

事務局：二次元コードを読み取って回答していただく方法を考えている。

委 員：休日の地域展開後に、平日の展開ということだが、平日の活動可能な時間についても児童や保護者アンケートで聞けると良い。

事務局：平日のこともあるが、段階的に進める上でまずは休日について聞いていく予定である。

委 員：スポーツ庁のホームページに10分程度の部活動の地域移行に関する動画があがっている。それを視聴してもらった上で回答してもらう方法はどうか。

事務局：前向きに検討したい。

《意見交換》

委 員：地域展開について、すぐに理解するのは難しい。自分が考えていた地域展開と違っていたことを知ることができた。児童に質問しても中々イメージが難しいと思われるため、すでに卒業した高校生などに質問するのも良いのではないか。

事務局：まずはこれから中学生になる児童を対象としたい。いずれは、高校生も含めた幅広い年代の方々からのご意見を伺いたいと考えている。

委 員：地域展開について理解をするのはなかなか難しい。単に地域の人にお願いするのではなく、市全体を分けるなど、簡単にできることではないと思った。計画はあってもなかなかそれを思い通りに進めるのが難しいのではないかと感じた。部活動の数が減っていくのは大きな問題だと思うので、大人にできることがないか考えていくべきだ。

委 員：規模や大きさによってやりかたが異なる。地域展開の形に正解はないので、いろいろチャレンジしていくながら、何年かかけてやっていくものだと思う。県内で委託をしている自治体もあるが、厚木とは規模が異なる。厚木に合った方法で行うことができると良いと思う。

委 員：資料を見て、まだまだ課題が多いことが分かった。地域には、指導者はまだまだいると思うので、そういう方々をどう探していくのかが大切。また、どこが主体となるのかも大切。やりたいことがやれない子ども達がいるので、早く進めいく必要があると感じた。

委 員：生徒数の減少に伴い、部活動の数が減ってしまう。やりたくてもやれない、子どもたちの可能性がなくなってしまうことは大きな課題である。子どもたちの未来がなくならないよう考えていきたい。

委 員：保護者の理解を得るのが難しいと思う。「部活動はなくなってしまう」ことのみが先行てしまい、心配の声を耳にすることがある。ロック制はいい案であると思うが、保護者は、学校単位での活動を望む気持ちが強いと思われるため、時間をかけて取り組んでいきたい。

委 員：部活動は先生方の献身的な取組で維持できてきたと思っている。その先生方に代わる人材の確保と、予算の確保が大きな課題だと思う。コベカツに興味をもつた。大きな自治体でありながら、子どもたちが種目を自由に選択できる環境になっている。どのくらいの予算をかけているのか、先生方が指導に携わる時間帯はいつなのか等を参考にできると、具体的に考えていくことができる。

委 員：保護者への理解と現場の職員の理解が必要であると思った。現在、色々な悩みをもちながら活動に取り組んでいる生徒もいる中で、他校の生徒との人間関係や他

校で練習をするときに、ハードルを感じる子もいると思う。地域の指導者がどこまでフォローできるのか、また学校の先生とどう共有するのか、つなぎの部分が難しい。ブロック制は理解できるが、単純に数字で分けるだけではうまくいかない部分も出てくるであろう。4ブロックにこだわらず、ブロック分けにも工夫の余地があると思う。また、厚木市は愛川町、清川村とのやりとりが必要になるため、他町村とのやりとりも気になるところである。厚木市は少し出遅れているのかもしれないため、先行している自治体の取組を学んで、参考にしていくと良いのではないか。